

「研究著書の概要」

NO.J2431

活動題目: 東ティモール 独立後の暮らしと社会の現場から

所属: 上智大学総合グローバル学部

氏名: 福武慎太郎

本助成により『東ティモール 独立後の暮らしと社会の現場から』を出版した。本書は、2022年に正式独立20周年を迎え、さらにASEANの11番目の加盟国として承認された東ティモール民主共和国について、その歴史、文化、政治など学際的な視点から考察を試みるものである。独立から20数年が経過し、日本で東ティモールについて報道され話題にのぼることはほとんどない。中東情勢が連日報道されていることを考えると、平和であるということはそういうことなのかもしれない。しかし、この20年間、独立を達成し平和になったことで、多くの研究者がこの国を訪れ、人類学、歴史学、政治学、国際協力、平和構築など諸分野から研究がなされ、多数の研究論文が発表されてきた。他方で、一般、学生向けに書かれたものは、独立前後の時期をのぞき皆無に等しい。そのような現状から、理想と夢を掲げて独立した東ティモールが、いかに平和を実現しているのか、多くの人々に周知することに、本書のねらいの一つがある。本書はインドネシア支配の終焉後、制限なくティモール島に滞在し、現地調査が可能になった時代の研究者が執筆者の中心となっている。報道や支援団体が発信する情報のなかにしか存在しなかった「東ティモール人」が、身近な同僚として、友人として、家族として知りうることになった経験を持つ執筆者が提供する視点は、これまでの東ティモール問題をめぐる言説を相対化し、東ティモール研究をさらに発展させることができる貴重な議論となると考えている。東ティモールの「主権」の回復、または「独立」の回復とはなんであったのか。「東ティモール人」とは誰か。本書が、東ティモール研究、東南アジア地域研究にとどまらず、対立と分断が世界を覆う現代のナショナリズムの問題に関心を持つ多くの人々に、新たな議論を提供するものとなることを期待している。